

「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」

看護の核となる実践能力:

看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

定義	レベル		I	II
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	レベル毎の目標	助言を得てケアの受け手や状況（場）のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる
	ケアの受け手をとらえ、判断し、その人に適した方略を選択する	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる
	ケアする力	レベル毎の目標	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）に応じた看護を実践する
	ケアの実施・評価を行う（PDCAサイクルや看護過程の展開）	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる 指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる 看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる ケアの受け手の状況に応じた援助ができる
	協働する力	レベル毎の目標	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる
	ケアの受け手を中心に情報やデータを多職種間で共有し、ケアの方向性を検討、連携する	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる 助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる 連絡・報告・相談ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる 関係者と密にコミュニケーションをとることができる 看護の展開に必要な関係者を特定できる 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる
	意思決定を支える力	レベル毎の目標	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる
	ケアの受け手が立ち会う場面（治療、最期の迎え方等）において、その人らしい選択ができるための意思決定を支える	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる

Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
<p>ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する</p>	<p>幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する</p>	<p>より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する</p>
<p>ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえたニーズをとらえる</p>	<p>ケアの受け手や状況（場）を統合しニーズをとらえる</p>	<p>ケアの受け手や状況（場）の関連や意味をふまえニーズをとらえる</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる ・得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ・意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる ・ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
<p>ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する</p>	<p>様々な技術を選択・応用し看護を実践する</p>	<p>最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる ・ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる ・ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる ・幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追求できる ・複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
<p>ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる</p>	<p>ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる</p>	<p>ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる ・ケアの受け手とケアについて意見交換できる ・積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの受け手がおかれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力しあうことができる ・多職種間の連携が機能するように調整できる ・多職種の活力を維持・向上させる関わりができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な状況（場）の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる ・多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる ・関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる ・目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
<p>ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる</p>	<p>ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる</p>	<p>複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる ・ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる ・ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを他職種に代弁できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる ・法のおよび文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる